

平和祈念事業アドバイザーボード（第 1 回）議事要旨

1 日 時：平成 22 年 4 月 7 日（水）15：30～18:00

2 場 所：新宿住友ビル スカイルーム（47 階）

3 出席者：（構成員）

◎亀井委員、黒沢委員、○杉浦委員、田久保委員、堀川委員、
水嶋委員（敬称略、五十音順。◎は座長、○は座長代理）

（総務省）

須江大臣官房審議官、北原特別基金事業推進室長、
佐藤特別基金事業推進室企画官

（独立行政法人平和祈念事業特別基金）

羽深事業部長

4 議事次第

- （1）開会・挨拶
- （2）委員紹介、座長選出及び座長代理指名
- （3）開催・運営について
- （4）平和祈念展示資料館の視察
- （5）平和祈念事業の経緯について
- （6）平和祈念事業の現状等について
- （7）平和祈念事業の委託内容について
- （8）今後のスケジュールについて
- （9）閉会

5 議事要旨

（1）開催挨拶

第 1 回開催にあたり、須江大臣官房審議官より挨拶があった。

（2）委員紹介、座長選出及び座長代理指名

事務局からの構成員紹介に続き、互選により亀井委員が座長に選任され、亀井座長から杉浦委員が座長代理に指名された。

(3) 開催・運営について

資料1（開催要綱）及び資料2（運営要領案）について、事務局より説明し、運営要領については（案）のとおり了承された。

(4) 平和祈念展示資料館の視察

古館平和祈念展示資料館学芸員より、資料館の展示等説明が行われた。

(5) 平和祈念事業の経緯について

資料3に基づき、事務局より説明が行われた。

(6) 平和祈念事業の現状等について

資料4に基づき、事務局より説明が行われた。

(7) 平和祈念事業の委託内容について

資料5に基づき、事務局より説明後、質疑応答が行われた。

委員からの主な発言等は以下のとおり。

- 博物館の世界では、国あるいはアドバイザリーボードに相当するガバナンスが重要だと言われている。ガバナンス、マネジメント、オペレーションがうまく機能することが重要。
- 資料館の運営については、これまでの議論を「平和祈念展示資料の記録・保存等に関する検討会報告書」としてまとめたところであり、受託業者にはこれを周知徹底して頂きたい。
- 国の責任で集めた資料の保存・有効活用をはじめ資料館の運営は、将来的に続けていかなければならないものであり、本来は、国がやるべきことである。その観点から言えば、総務省において、全部引き受けるぐらいの意気込みを持ち、それをしっかり継承されるような体制及び人的育成を考えて頂きたい。

- 資料館の運営においては、基本的にソフト面が大事であり、良い人がいるかないかで決まるので、きちんと人の手当をする必要がある。資料の寄贈や意見を受けるにあたって資料館と人間関係を如何に上手く作っていくかということが運営の正否を決めるので、これまで展示に携わっている人やその後継者の育成を考慮する必要がある。

- 慰霊碑の維持・管理や資料館の運営というものは、できれば民間に頼らず、国が中心となって行うべきである。基本的には、国がプロパーで行い、業者委託を行う部分は必要最小限で良い。

- 資料館の運営においては、どのような展示するか、また、どのような方針で行うかということは、やはり国が責任をもって決めるべきであり、その方針に基づいて受託業者が実施するという考え方で行うべきもの。したがって、展示や広報等の様々な分野の総合調整をする館長は、国の責任で配置すべき。

- 労苦に報いる、あるいは後世に平和の尊さを伝えていく観点から、長期的なことを考えると、例えば資料館の運営と慰霊碑事業は一体的に行ったほうが事業を引継ぎやすいのではないか。

(8) 今後のスケジュールについて

資料6に基づき、事務局より説明が行われた。

以上